

NF 通信

ice arther



Vol.2

column

01

専門家コラム

大妻女子大学 人間関係学部 准教授 田中 俊之さん
(男性学の第一人者として、メディアや講演会等で活躍中)



戦後の日本社会において、戦前のような権威主義的な父親像は否定されるようになりました。しかし、少年犯罪の増加や凶悪事件が起こるたびに、最近は父親がだらしがないからだという批判が繰り返さされてきました。日常的なしつけの場面でも、父親として厳しく叱った方が子どものためになるのではないかと悩む方もいるかもしれません。しかし、相手を怯えさせて従わせることが、果たして子どものためになるのでしょうか。長期的な視野に立てば、子どもが自分で物事を考えられるようにする方がはるかに大切なはずです。小さな子どもはまだ十分に感情を言葉で表現することができません。叱って黙らせるのではなく、しっかりと子どもの言葉に耳を傾けたいものです。

column

02

NGFリレーコラム

※NGFとは、Nice Grand Father の頭文字です。

1期生 近藤 正直さん 65歳

二人の孫は、もうすぐ4歳と1歳になる男の子です。1歳になる子は、茨城にいたので簡単には会えません。4歳になる子は、幸い近くに住んでいるのでよく遊びに来てくれます。4月から幼稚園に通い始めたため会える時間が減りましたが、先日、運動会を参観してきました。たくさんのお友達の中で頑張っている孫の姿に大感激です。ちびちゃんは、誕生日を前に歩き始め、保育園の慣らし通園中とのこと。二人ともLINE待っているよ！



子育てコンシェルジュより

まだ寝ているだけの赤ちゃん。「関わりたくてもどうやって関わったら良いのかわからない。」そういう方は多いようです。まずは、そっと話しかけてみましょう。「おはよう。」「今日もかわいいね。」ほっぺや手足に軽く触れながら。今はあまり反応していないように見えていても、パパやじいじの声は、ちゃんと赤ちゃんに届いています。声をかけてから体に触れていくことで、赤ちゃんも『期待して待つ』ようになりますよ。応答的な関わり合いが生まれます。優しい声とスキンシップは、赤ちゃんの心の安定につながります。

